平成30年度　最終報告書

石川県立金沢錦丘中学校

重点指標		具体的取組		実現状況の達成度判断基準	結果	分析（成果と課題）及び改善策
1	中高一貫教育校の特長を生かし、学び方や生き方の質を高め、一人一人の良さを引き出し、認め、伸ばすための工夫・改善を図る。	1-1	中高一貫教育校に学ぶ生徒として誇りを持ち、気持ちの良い挨拶と礼儀・礼節を大切にするとともに、時間や期限を守ることを通して、社会に通用する人材を育成する。	誰に対しても、自分から気持ちの良い挨拶ができている。 肯定的評価が A80%以上　B70%以上　C60%以上　D60%未満	生徒アンケート 肯定的評価79% 【判定:B】	生徒の肯定的評価が、前期より1ポイント減少した。後期は、生徒のボランティア挨拶を実施する工夫を行ったり、教師の登校指導の声かけを強化したりすることで、多くの生徒は気持ちよく返してくれるのだが、自分から進んで挨拶できない生徒がいるのも現状である。本校が進めるキャリア教育の第一歩として、今後もあいさつ運動などの仕掛けの強化とともに「なぜ挨拶をしなければならないか？」等の心の指導を継続していくことが必要である。
				提出物や課題は、期限を守って提出している。 肯定的評価が A90%以上　B80%以上　C70%以上　D70%未満	生徒アンケート 肯定的評価86% 【判定:B】	「フォーサイト」（生活ノート）や家庭学習における「TO　DO　リスト」により、生徒は、見通しを持って家庭学習に取り組むようになり、一定の成果が見られる。しかし、後期は、前期に比べて肯定的評価が1ポイント減少した。依然として個別に指導の必要な生徒もおり、粘り強く取り組む必要がある。また、教師がお膳立てしすぎる課題も見受けられるので、取り組みを検証し、改善を図る必要がある。
		1-2	健康な生活の維持向上に努めるとともに、部活動を通して心身ともに逞しい生徒を育成する。	規則正しい生活をするとともに部活動を通して心身ともに逞しくなってきている。 肯定的評価が A90%以上　B85%以上　C80%以上　D80%未満	生徒アンケート 時間　肯定的評価96% 身なり　肯定的評価94% 部活　肯定的評価90% 【判定:A】	「正しい身なりをし、ルールを守って生活している」を肯定的に回答した生徒はほとんどで、おむね規範意識は育っていると考えられる。今後もきまりを誠実に守ることができるように継続的な指導を行う必要がある。また、生徒の自主的な活動を通して、内面的な成長が図られるよう、働きかけていきたい。部活動については、生徒の多くが部活動を通して心身ともに成長していると評価している。また、保護者アンケートでも肯定的な評価が88%で、保護者も、部活動を通しての生徒の人間的な成長に対して評価していることが分かる。
		1-3	中高一貫教育校のメリットの1つである時間のゆとりを生かし、資格取得や各種コンクール等への積極的な参加を促し、自ら学び、創造性を伸ばそうとする生徒を育てる。	英検の取得率（4級は中2、3級は中3、準2級は高1レベル） 1年　2年　3年 A4級65%以上　3級70%以上　準2級55%以上 B4級60%以上　3級60%以上　準2級45%以上 C4級55%以上　3級50%以上　準2級35%以上 D4級55%未満　3級50%未満　準2級35%未満	1年　69%【判定:A】 2年　78%【判定:A】 3年　72%【判定:A】	英語は国レベルで強化が進んでおり、今年度も英検の全員受検に取り組む。英語教室に目標を掲示したり、英語の時間に指導したりするなど、少しでも上の目標が達成できるように取り組んでいる。また、高峰賞や宮村英語奨励賞などへの参加を促したり、夏の自主課題（各種コンクール等）に取り組ませたりするなど、生徒の意欲を喚起する取り組みを行っている。
		1-4	朝の全校読書に取り組み、読書の習慣化を図る。	読書が好きで、普段から読書に親しんでいる。 肯定的評価が A85%以上　B80%以上　C75%以上　D75%未満	生徒アンケート 肯定的評価62% 【判定:D】	生徒の肯定的評価が、前期より2ポイント減少した。後期は、図書委員会や市立図書館の司書によるブックトークなどの取り組みを行ったが、現状はあまり変わっていない。。3学期は、国語科で1・2年生合同のブックトークを行うなど、次の手を積極的に行っている。今後も、読書に対する意識の向上を図るために、図書委員会や国語を中心に読書に取り組むことを推進したりするなど読書活動を充実させていきたい。
		1-5	望ましい人間関係づくりといじめを見逃さない学校づくりに取り組み、問題があれば組織的に対応する。	「学校が楽しい」と感じる生徒を増やせるとともに、生徒観察や定期的なアンケート等をとおして実態把握に努め、小さな変化にも組織的に対応している。 肯定的評価が A100%　B95%以上　C90%以上　D90%未満	教職員アンケート 肯定的評価95% 【判定:B】	毎月の迷惑調査、年二回の生活アンケートで生徒の声を拾い、些細なことでも見逃さない体制ができている。担任、教科担任、学年主任、生徒指導、教育相談、部活顧問が密に連絡を取り合うことで、迷惑行為の早期発見ができている。また、行為が見つかった後の指導も、組織的に対応し、保護者に対しても丁寧に対応している。生徒の「学校が楽しい」と答えた肯定的評価は、92%と前回同様のポイントであった。保護者の意識も、「お子さんは楽しく学校に行っている。」が94%と高い水準である。
		1-6	生徒一人一人の良さを引き出し、認め、伸ばす教育を推進し、「自己有用感の高い生徒」を育てる。	「自分には良いところがある。」と感じている。 肯定的評価が A90%以上　B80%以上　C70%以上　D70%未満	生徒アンケート 肯定的評価72% 【判定:C】	生徒の肯定的評価は、前期より2ポイント減少した。個人面談や教科面談などの教師の働きかけや、生徒指導部の生徒理解の取り組み、本校独自のキャリア教育の推進をさらに充実させる必要がある。今後も積極的な仕掛けが行われるよう取り組んでいきたい。

学校関係者評価委員会の評価	アンケートの問い方や、評価の基準値を検討する余地があるのではないか。どう答えたら分からないものがあったり、1つの質問に2つの要素が入っているものもある。 自己有用感を上げるために、良い取り組みをしていると思う。生徒に自己の良さを知ってもらえる手立てをして欲しい。
学校関係者評価委員会の評価評価結果を踏まえた今後の改善方策	アンケートの問い方や、評価の基準値については、次年度に向けて検討していきたい。また、自己有用感を高める取り組みについては、今後も工夫・改善をしていきたい。

重点指標		具体的取組		実現状況の達成度判断基準	結果	分析（成果と課題）及び改善策
2	道徳教育やキャリア教育の充実及び積極的な生徒指導の推進を通して、高い志と人を大切にする豊かな人間性、主体的に行動できる強い心を持った生徒を育成する。	2-1	道徳の時間を要として、教育活動全体を通じて、理想の実現や人を大切にする心、より良い社会の実現を目指すなどの道徳性を育くむ。	道徳の時間を要として、教育活動全体を通じて道徳教育を推進し、生徒が自己の成長や人を大切にする心が深まったことを感じている。 肯定的評価が A90％以上　B85％以上　C80％以上　D80％未満	生徒アンケート 肯定的評価79％ 【判定:D】	生徒の肯定的評価が、前期より7ポイント減少した。道徳推進教師のリーダーシップのもと、一人一人の教師が道徳の授業をより大切にし、改善に努めてきているが、成果が十分に見られていない。今後も、研究授業、互見授業を通して、道徳の授業の質を向上させるとともに、各種通信を通して授業や学校の取り組みの様子を知らせることで、家庭との連携も深めていきたい。
		2-2	総合的な学習の時間や特活の時間を中心に6年間を見通したキャリア教育を実践し、生徒の視野を広げ将来の夢や目標について考える取組を行う。	将来の夢や目標を持っている。 肯定的評価が A90％以上　B80％以上　C70％以上　D70％未満	生徒アンケート 肯定的評価71％ 【判定:C】	生徒の肯定的評価が、前期より7ポイント減少した。各学年とも狙いを明確にし、それに沿って職場体験、修学旅行等の体験活動を計画、実施している。また、個人面談や先輩（高校生・大学生など）に話を聞く機会などを積み重ね、将来の目標を定め、それに向けて努力できる生徒を育てている。また、夢や3年間の学びの足跡を記録する「マイキャリア」を通して、3年間の学びの足跡を残し、個々の成長をふり返させる手立てを取り入れている。今後も、改善を図りながら取り組みを充実させていきたい。
				将来の夢や目標の実現に向けて計画を立て、実行しようと自律的に努力している。 肯定的評価が A90％以上　B80％以上　C70％以上　D70％未満	生徒アンケート 肯定的評価55％ 【判定:D】	生徒の肯定的評価が、前期より11ポイント減少した。「キャリア教育」は本校の様々な教育活動の根幹である。今年度は運営委員会を拡充し、多様な視点から取り組みを検証している。今後も、具体的な取り組みを提案することによって、本校のキャリア教育の推進を図っていきたい。
		2-3	学級会活動や生徒会活動において、1年生から段階的に話し合い活動や自治的な活動に取り組ませ、自主的・実践的な態度を育てる。	色々な活動や取組に対して、自分で考えて自主的に最後まで粘り強く取り組んでいる。 肯定的評価が A90％以上　B80％以上　C70％以上　D70％未満	生徒アンケート 肯定的評価86％ 【判定:B】	言われたことは確実にできるのだが、自分で考えて進んで行動することがまだまだできていない。本校の生徒の大きな課題である。生徒に全校朝礼や行事の司会・運営をさせたり、様々なリーダー会の活動を充実させたりボランティア活動を呼びかけたりするなど、生徒自ら考えて行動する機会をつくってきた。今後もそのような機会をできるだけ設定し、生徒が能動的に行動できる様にしていく。

学校関係者評価委員会の評価	アンケートの問い方や、評価の基準値を検討する余地があるのではないか。 キャリア教育の取り組みはよく頑張っている。この取り組みは、すぐに結果の出るものではない。そういう意味では、きめ細やかな指導を積み上げているのはよいことである。継続していってほしい。
学校関係者評価委員会の評価評価結果を踏まえた今後の改善方策	アンケートの問い方や、評価の基準値については、次年度に向けて検討していきたい。また、キャリア教育の取り組みについては、今後も工夫・改善をしていきたい。

重点指標			具体的取組	実現状況の達成度判断基準	結果	分析（成果と課題）及び改善策
3	学校研究のより一層の深化・充実を図るとともに、自律的な学びを通して、たくましさと粘り強さを伴った確かな学力を育成する。	3-1	生徒に授業の大切さを伝えるとともに、「分かる楽しさ」「できる喜び」「学ぶ面白さ」が味わえる授業づくりに努める。	教材研究に取り組み、「授業が良くわかる」と回答する生徒を増やせている。 肯定的評価が A90%以上　B80%以上　C70%以上　D70%未満	生徒アンケート 肯定的評価93% 【判定:A】	生徒の肯定的評価が、3ポイント減少したものの、依然高い水準にあることがうかがえる。付けたい力を明確にした教材研究と、生徒をやる気にさせる指導・評価計画・テストの作成を目標に先生方が授業改善に取り組んでいる成果が出ている。今後は生徒たちに見通しを与え、自律的な学習者に育てて行くことが目標である。
		3-2	付けたい力が効果的に身に付く言語活動を設定したり、ICT活用を推進したりする。	授業で生徒の間で話し合う活動がよく行われ、自分の考えを広げたり、深めたりすることができている。 肯定的評価が A80%以上　B70%以上　C60%以上　D60%未満	生徒アンケート （研究部アンケート） 肯定的評価85% 【判定:A】	自分の考えを発表したり、グループ活動などで話し合う活動は大切であると97%以上の生徒が考えており、学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることができていると92%の生徒が答えている。（研究部アンケート）各教科において、学習の目標や狙いを達成するために、効果的にグループやペアでの活動を取り入れてきていることが評価されている。ただ、その場合でも個人思考の場面が足りなかったり、最後の全体での意見交流（振り返り）がなかったりするなど、まだ課題が見受けられる。ICTの活用については教職員の意識も高まってきて、タブレット、プロジェクター等の使用頻度もあがってきている。
		3-3	基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるため、教えきる、学びきる指導を行う。	教えきる、学びきる指導を通して、学力推移調査や定期テストにおいて、下位層を減らすまたは増やさないことができている。 肯定的評価が A80%以上　B70%以上　C60%以上　D60%未満	教職員アンケート 肯定的評価81% 【判定:A】	教師の肯定的評価は、前期より5%減少した。生徒に取り組ませる各教科の課題は、今年度も「必須課題」と「選択課題」に分けて、生徒の能力に応じて選べるようにしている。必須課題への取り組みは徹底しやすくなったが、まだ改善の必要があるので、今後も取り組みの検証及び改善を継続していく。夏休みなどの補習は、各学年で工夫が見られるので、今後の成果につなげていきたい。
	学校研究のより一層の深化・充実を図るとともに、自律的な学びを通して、たくましさと粘り強さを伴った確かな学力を育成する。	3-4	論理的な思考力・表現力を育成するため、根拠や筋道を明確にして、説明や論述をさせる指導を行う。	考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるよう指導し、生徒の「論理的な思考力・表現力」が伸ばすことができている。 肯定的評価が A80%以上　B70%以上　C60%以上　D60%未満	教職員アンケート 肯定的評価100% 【判定:A】	考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるよう指導することは、本校が指導の重点として継続してきたことである。どの教科でも論理的思考につながる言語活動の工夫・改善が継続して行われ、生徒の論理的思考力を伸ばすことができている。
		3-5	批判的思考力を育成するため、課題設定、発問、学習形態等を工夫する。	多面的・多角的に考察する言語活動の充実を図り、生徒の「批判的思考力」が伸ばすことができている。 肯定的評価が A80%以上　B70%以上　C60%以上　D60%未満	教職員アンケート 肯定的評価96% 【判定:A】	これまでの研究で推進してきた、「多様な観点から考察する力の育成」と「生徒の批判的思考力の育成」の取り組みの成果がでている。今後も、課題設定、発問、学習形態等の工夫を図るとともに、教科の本質的な学びのさらなる研究を推進する必要がある。
		3-6	高校の学習内容を視野に入れてた発展的課題に取り組むことで、目的意識や向上心を高める。	6年間の系統性を踏まえ、それぞれの教科の指導を行っている。 肯定的評価が A80%以上　B70%以上　C60%以上　D60%未満	教職員アンケート 肯定的評価95% 【判定:A】	中高一貫教育校として、各教科において高校との連携を模索する取り組みが増えてきている。しかし、6年間の系統性を踏まえてという視点においてはまだまだ課題が見られる。今年度は、高校との授業交流や校内研修会の機会も増え、協力体制ができつつあるので、さらなる関係強化を進めていきたい。
		3-7	自律的な学習習慣が身に付くよう指導・評価計画とテスト作成を工夫する。	計画的に学習を進め、週あたりの家庭学習時間の目標を達成している。 肯定的評価が A80%以上　B70%以上　C60%以上　D60%未満	教職員アンケート肯定的評価77% 保護者アンケート肯定的評価76% 生徒アンケート肯定的評価71% 【判定:B】	教師の肯定的評価が、前期より4ポイント減少した。教師は週の学習時間の集計をさせたり、生徒の「フォーサイト」（生活ノート）などで、学習習慣がまだまだ身についていないと評価している。保護者や生徒も、まだ「学習習慣が身についた」とまでの評価はしていない。今後も課題の量や取り組ませ方を工夫し学習習慣の定着につなげたい。

学校関係者評価委員会の評価	学力向上について、良い結果を出している。
学校関係者評価委員会の評価評価結果を踏まえた今後の改善方策	授業研究の取り組みについては、今後も、学校研究を通じて研鑽を図り、教師一人一人の力量を高めていき、県内に発信していきたい。

重点指標		具体的取組		実現状況の達成度判断基準	結果	分析（成果と課題）及び改善策
4	教職員の働き方や業務改善に関しての意識改革を図るとともに、学校経営について積極的に情報を公開し、安心して学べ、信頼され、県民からより選ばれる学校づくりを行う。	4-1	長時間勤務をやむなしとするこれまでの働き方を見直し、限られた時間の中で教職員の専門性を生かしつつ、教材研究・授業準備や子供たちと向き合う時間を確保する。	時間外勤務時間月80時間超える教職員の数（月平均） A 0人 B 0～2人 C 2～4人 D 4人以上	時間外勤務時間 月80時間を超える教職員の数 月平均8人（4～1月） 【判定：D】	毎月の職員会議で昨年度と対比をしながら、時間外勤務時間減少に対する啓蒙を行ってきた。また、行事や日課の見直しなどもしながら、時間外勤務の軽減に向けての取組みも継続的に行ってきた。少しずつ効率的に仕事を終えて最終退校時刻前に退校する先生方も増えたが、目標である月80時間を超える教職員の数0にはまだまだである。教育の質を落とさずにこれまでの働き方を見直すには、先生方の大きな意識改革が必要である。今後も少しずつ改善に向けて粘り強く努力を続けていきたい。
		4-2	中高一貫教育校に対する生徒及び保護者の期待やニーズを分析し、より望まれる学校づくりを目指す。	中高一貫教育校の現状の公開に、積極的に努めている。 肯定的評価が A90%以上 B85%以上 C80%以上 D80%未満	保護者アンケート 肯定的評価91% 【判定：A】	各種通信、にしきネット、ホームページの更新により、タイムリーな情報発信を心がけている事が評価されている。さらに、「学校は、公開週間や授業参観、保護者懇談等を通じて、積極的に学校公開に努めている」の評価も87%と高い理解を得ている。今後も中高一貫校の現状を伝えられるように努力を続けていく。
				オープンキャンパスと学校説明会参加者数 A600人以上 B500人以上 C400人以上 D400人未満	春の学校説明会 212人 オープンキャンパス 273人 秋の学校説明会 259人 （保護者数） 【判定：B】	今年度も、1学期中に学校長が旧第2学区を中心に学校訪問を行った。さらに、夏季休業中に管理職及び主任を中心に2回目の学校訪問を行った。新たに作成した学校紹介を使い本校の魅力を伝えると共に、秋の学校説明会の参加を依頼した。今後も、中高一貫教育校としての本校の魅力が伝わるよう努めていきたい。
				適性検査の受験者数 A280人以上 B260人以上 C240人以上 D240人未満	適性検査志願者数 226名 【判定：D】	小学校訪問、オープンキャンパス、春秋の学校説明会、昨年度の適性問題配付など、積極的に働きかけてきたが、昨年度の志願者数を下回る結果となった。これまでの取り組みの成果と課題を検証し、来年度に向けて取り組みの強化を図っていきたい。

学校関係者評価委員会の評価	校内での取り組みは、よく頑張っているので、このことを広く発信していって欲しい。また、受験者や合格者の保護者へのアンケートなどから、保護者のニーズを分析し、倍率を上げるための対策を講じて欲しい。
学校関係者評価委員会の評価評価結果を踏まえた今後の改善方策	オープンキャンパスや学校説明会などのアンケートの内容を検討するとともに、今年度の結果を分析し、対策を講じていきたい。また、これまでの取り組みを検証して、中高一貫教育校である本校のうりになることを今後もPRしていきたい。